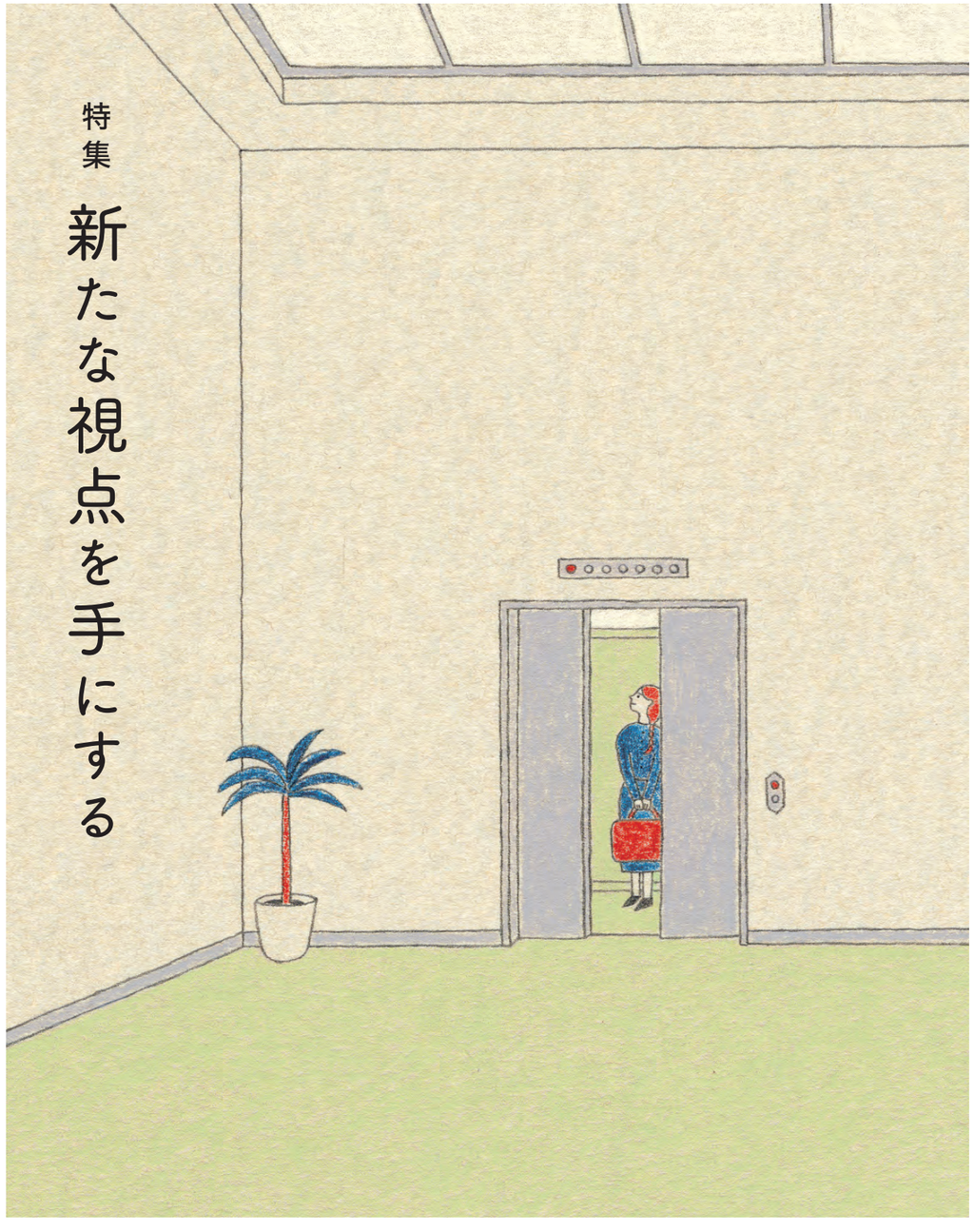
VOL.169

神奈川芸術プレス

kanagawa arts press



特集

新たな視点を手にする

MUSIC 渋谷慶一郎　DANCE 康本雅子

ART SEEDS in KANAGAWA　JAXA相模原キャンパス × 小松宏誠（アーティスト）

かながわ聖地巡礼 箱根

WEB版はこちら

教えて！あなたの声　読者アンケートのページ

「神奈川芸術プレス VOL.169」をお読みいただき、ありがとうございました。ここは読者の皆さまのお声のページです。アンケート回答が次号「神奈川芸術プレス（冊子版、WEB版）に掲載決定した方の中から、抽選で1組2名様を2027年2月3日（水）14:00上演の『クリーン、スマート、テンポラリー』（KAAT神奈川芸術劇場〈中スタジオ〉）にご招待します。ぜひあなたのお声をお寄せください。



今号のプレゼント

KAAT神奈川芸術劇場プロデュース
『クリーン、スマート、テンポラリー』
読売演劇大賞優秀作品賞を受賞した『ライカムで待っとく』再演から三年。
兼島拓也作、田中麻衣子演出による待望の第二作
作：兼島拓也　演出：田中麻衣子
出演：蔵下穂波、関谷春子、中山求一郎、畠 陽子、有川マコト、あめくみちこ

公演の詳細はこちら

アンケート項目

1. 今回の「神奈川芸術プレス」はいかがでしたか。ご意見・ご感想をお聞かせください。
2. 今号で印象に残った記事を教えてください。
3. 次号以降、取り上げてほしいアートジャンルやアーティストを教えてください。
4. 「神奈川芸術プレス」をどちらで見つけましたか。
5. 好きなアートジャンルは何ですか。
6. アーティストに生まれ変われるなら、どのジャンルのアーティストですか。それはなぜですか。
7. アートプロジェクトに参加したことはありますか。それはどんなプロジェクトでしたか。その時のエピソード・感想を教えてください。

応募方法　「WEBアンケートフォーム」もしくは「はがき」に、アンケートの回答とメールアドレスを明記のうえ、ご応募ください。
WEBアンケートフォーム：krs.bz/kanagawaaf/m/kap169q
はがき郵送先：〒231-0023　横浜市中区山下町32 神奈川県横浜合同庁舎3階
公益財団法人神奈川芸術文化財団 神奈川芸術プレス読者アンケート係

回答期限　2027年1月7日（木）必着

当選発表　次号（VOL.170／2027年3月12日発行予定／冊子版とWEB版いずれか）に掲載決定した方の中から抽選のうえ、当選者を決定いたします。当選者の発表はメール送信をもってかえさせていただきます。

WEBアンケートフォームはこちら

・当選に関するお問い合わせには回答いたしかねます。
・当選通知メールは、kaf@kanagawa-af.orgのアドレスから送付予定です。上記ドメインからのメールを受信できるよう、設定をご確認ください。
・メールアドレスの間違い等でメールが送信できない場合は、当選を無効にさせていただく場合があります。
・お申し込み時にいただいた個人情報は、当選通知以外の目的には使用いたしません。

SNSスペシャルアンケートでいただいたお声はこちら！

昨日までとは違う新しい世界が開けたアート体験は？

・直島地中美術館の天井に穴が空いている作品を、夕方から夜まで眺める体験。すごく整った感があり、私も娘も感激していましたが、ほとんどの人は飽きている感じだったのも、面白かったです。（50代 女性）

アートイベントで出会ったすごい人・とんでもない人は？

・東京国立博物館の国宝『松林図屏風』の前に午前中から閉館まで、仁王立ちで眺めてた人です。朝見かけて、他の館を見たりご飯食べたりして戻ってきたら同じポーズで画を睨んでました。（60代 男性）

今までで一番感動した（盛り上がった）アートイベントの思い出は？

・劇団☆新感線に出演していた天海祐希さんをみて、あまりにもかっこよく感動して、気づいたら、知らない隣の席の方と手を握っていた。（60代 女性）

日常生活の中でアートを感じる時は？

・サイエンスもアート。虫や両生・爬虫類の脱皮した抜け殻も、花や葉の形も。自然の造形はすばらしい。（40代 女性）

もし1日だけ好きなアート作品の中に入れるなら何が良い？

・ムンクの叫び！ 何を叫んでるのか聞いてみたい。（60代 女性）
・モナリザの目線で世界を見てみたい。（50代 女性）

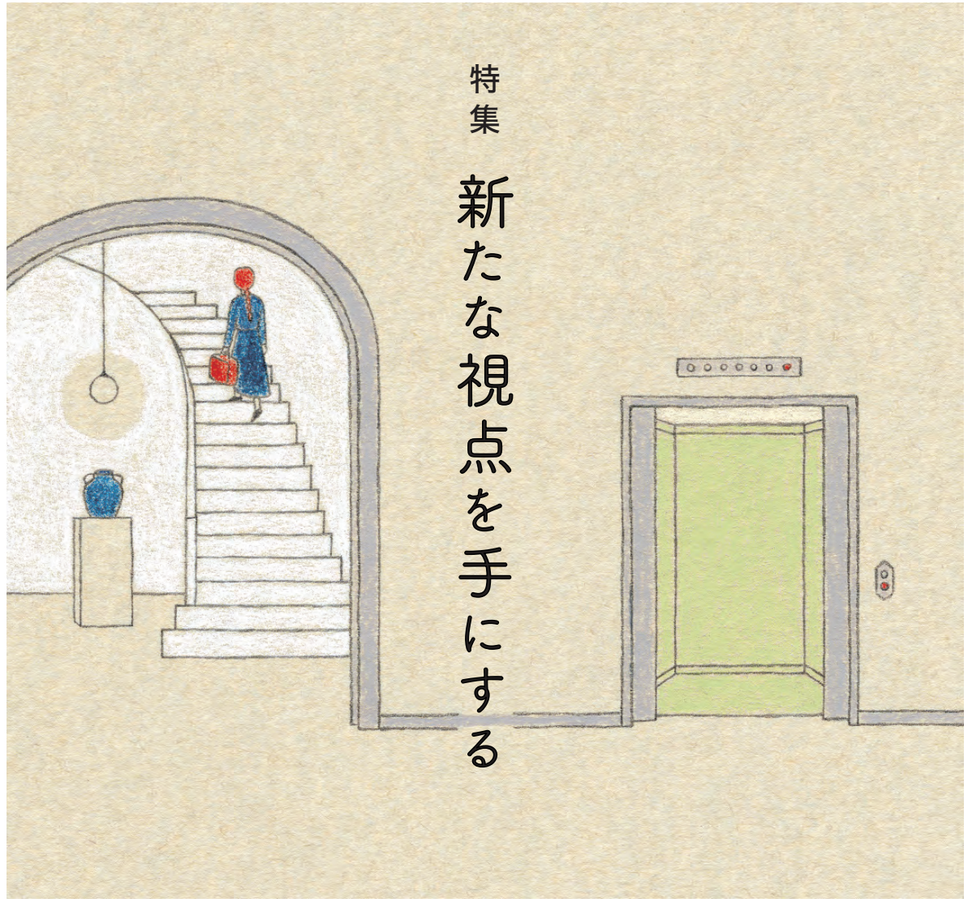
自分を1つのアート作品にたとえるなら？

・何も描いていない、あるいは一度描いた作品を塗りつぶしたキャンバス。もう一度描き（やり）直せるなら…。（70代 男性）

たくさんのご応募ありがとうございます！
今回の当選者へのプレゼントは「ジャズ大名」ペアチケット、KAAT、音楽堂オリジナルグッズです。
WEB版にももっと皆さまのお声が紹介されています！

公益財団法人 神奈川芸術文化財団

神奈川文化プログラム MAC CUL マクカル



特集

新たな視点を手にする

全く違う景色や感覚が待っています。

アートとは旅なのかもしれません。
まだ見ぬ知らない世界に、あなたを
連れて行ってくれます。
劇場やホール、美術館から出て、い
つもと同じ街や暮らしに戻ったとし
ても、そこには昨日までとは全く
違う景色や感覚が待っています。
それは、あなたの周りの世界が変
わったからではありません。
あなたの世界を見る視点が変わった
からではないでしょうか。
新たな視点を手にするあなたの旅は
終わることがありません。

CONTENTS

03 特集　新たな視点を手にする
MUSIC　渋谷慶一郎／音楽家
DANCE　康本雅子／ダンサー・振付家

10 ART SEEDS in KANAGAWA
JAXA 相模原キャンパス × 小松宏誠／アーティスト
CROSS TALK
吉川健人／MMXプロジェクトチーム研究開発員 × 小松宏誠／アーティスト

13 かながわ お宝探訪
宝城坊旧本堂内厨子と諸仏・四天王像・十二神将像（国指定重要文化財）
日向山 宝城坊・伊勢原市

14 かながわ 聖地巡礼
箱根

16 REVIEW
MUSIC　PLAY　ART

20 Letter from Kanagawa Arts Foundation
社会連携ポータル課
art place - art person
吉田舞雪／社会連携ポータル課

23 ご支援のお願い

24 教えて！ あなたの声
読者アンケートのページ

表紙のつぶやき

彼女が持っているのは旅行鞄です。非日常を感じる、旅をしている印象を出したくて旅行鞄を選びました。部屋や出口に向かっているのか、それとも別の目的地へ旅立つところなのか、色々想像してもらえるような不思議な空間を目指しました。

表紙・扉 イラストレーション：**小泉理恵**
制作会社などのデザイナーを経て、イラストレーション活動を開始。国内外の書籍、雑誌、広告などで活動中。 riekoizumi.com

＝WEBサイト／＝場所／＝開催・開館時間など／＝アクセス／＝電話番号／＝メール

神奈川芸術プレス VOL.169（2026年11月13日発行）
発行：公益財団法人神奈川芸術文化財団　〒231-0023　横浜市中区山下町32 神奈川県合同庁舎3F TEL.045-222-0551
企画・制作：公益財団法人神奈川芸術文化財団 MOJOWORK　編集・デザイン：MOJOWORK
◎次号発行予定　2027年3月12日

artspress.jp
WEB版はこちらから。
誌面で紹介しきれなかった
拡大記事、動画、音源なども
掲載しています。

このマークの記事には
WEBだけの拡大版が
あります。

関連動画をSNSで順次投稿します。ぜひフォローしてください。
kanagawa_press　kanagawa_press

【禁無断転載・複写】無料配布　＊本誌掲載情報は2026年9月1日現在のもの


©Claude Gassian

渋谷慶一郎
音楽家

境界の向こう側へ。


「アンドロイド・オペラ『MIRROR』－Deconstruction and Rebirth －解体と再生－」第64回大阪国際フェスティバル(2026)
©ATAK ／写真：吉野 萌

ポップスターのような派手さと、文学青年のような内向性が同居するアーティスト。彼の作品では常に、現代音楽とポピュラー音楽が、あるいは伝統とテクノロジーがせめぎあいながら新しい音の世界を現出させます。その独創的な軌跡について聞きました。

「場」を作る作曲家

コンポーザー、ミュージシャン、さらにはATAKレーベルのプロデューサー。渋谷さんの活動を貫く、こうした複合的な在り方のルーツには、高橋悠治[*1]という存在があったといいます。

「そもそも僕が作曲家になろうと思ったのは、悠治さんの『可不可』を見たことがきっかけです。作曲家自身が一つの〝場〟を組織するようなかたちの活動があることを知って、一生の仕事として飽きないんじゃないかと思った。

ATAKを立ちあげたころは主に電子音楽の分野で色々なことを試みました。ラップトップ1台で音楽を作れるというのは、最終的な音質や音色をひとりでコントロールできるところが何よりもよかった。五線譜で書いたら、結果は演奏家にまかせないといけないけれど、電子音楽はそれがない。様々な要素を配置するという意味でのコンポジションと、音色の研磨を両立させたいと常に思っていましたね。

その後、複雑系研究の第一人者である池上高志[*2]さんと知り合って、彼と一緒に〝第三項音楽〟というプロジェクトを立ち上げてIAMAS[*3]で最初の発表をしました。僕はもともと連続的に変化する音が好きで、波の音は不規則的なのになぜ飽きないのだろうなどと真面目に考えたりしていたんです。その時ふと、音像が立体的だから飽きないのだと気づいた。だから池上さんとのサウンド・インスタレーション『filmachine』(2006)では、マルチチャンネルによって不規則な音を有機的、そして快楽的に実現しようとしました。ただ、ベルリンでの同作のコンサート・ヴァージョンが成功し、一つの到達をみた気がしたのと、その後に妻を亡くしたこともあって、そのまま同じことを続けることはできないと思ったんです」。

「オペラの残骸」からアンドロイドへ

こうして渋谷さんは、電子的・抽象的な音楽からいったん距離を置き、アコースティックな作品、そして物語的な作品へと向かっていきます。こうして生まれた、ヴォーカロイドの初音ミクを主役にしたオペラ『THE END』(2012)、そしてアンドロイドによるオペラ『Scary Beauty』(2018)や『MIRROR』(2022)は国際的なセンセーションを巻き起こします。

「僕の創作の大きなテーマに生と死、が

＊1:1938年東京生まれ。作曲家・ピアニスト 。柴田南雄、小倉朗、ヤニス・クセナキスに作曲を学ぶ。多年コンピューターを使用した演奏と他の音楽家との即興を続け、日本の伝統楽器と声のための作品も多い。
＊2:1961年長野県生まれ。物理学者、人工生命研究者。東京大学名誉教授、同大学大学院総合文化研究科特任教授、跡見学園女子大学情報科学芸術センター教授・センター長。
＊3:NTTインターコミュニケーション・センター。東京・初台にあるNTT東日本の文化施設。1997年に開館し、メディアアートを中心に、科学・技術と芸術の交流を促す展覧会やイベントを開催している。

DANCE

新たな視点を手にする｜2

康本雅子

ダンサー・振付家

まだ使っていない感覚を、少しでも開拓してみたい。



『全自動煩悩ずいずい図』（2023）　©Kikuko Usuyama



「アンドロイド・オペラ『MIRROR』－Deconstruction and Rebirth－解体と再生－」第64回大阪国際フェスティバル（2026）　©ATAK／写真：竹久直樹

振付家・ダンサーの康本雅子さんは、2026年4月から横浜赤レンガ倉庫1号館振付家として、2年間の活動を始めました。2027年2月には、同館で新作の発表も予定しています。作品を作ることと、ワークショップなどダンスの裾野を広げること。現在の活動を軸に、康本さんが体を通して考えていることを聞きました。

自分の体を感じていいんだよ

力を抜いているつもりでも、体のどこかにはまだ力が残っています。触れてみて初めて、「まだ抜けていない」とわかる。私たちは案外、自分の体がいまどうなっているのかを知りません。

「1時間半で、めっちゃ変わるとかないですよ。あったら怖いです」。ワークショップで康本さんが目指すのは、短時間で何かを変えることではありません。「あ、まだ力が入っていたんだ」と、それまで意識していなかった状態にひとつ気づくこと。それだけでも、体に対する解像度は上がります。「自分の体を感じていいんだよ」。まずその感覚を確かめることを大切にしています。

体への関心は、活動を始めた頃から変わりません。「自分の体にも人の体にも、まだ全然開発されていない部分があると思うんです。日常では決まった動作を半分自動的に繰り返していて、体を全部使っているわけではない。まだ使っていない感覚を、少しでも開拓してみたいというのはずっとあります」。

2019年から続けている親子向けの性教育ワークショップでも、まず自分がどう感じたかを確かめます。誰かに触れられて、嫌なのか、心地いいのか、それともよくわからないのか。「相手が誰であっても、自分が感じていることが、自分にとっての正解です」。親には「やめて」と言えても、友だちには言えなかったり、先生が相手なら最初から諦めてしまったりすることもあります。だから一度、自分の感覚を確かめ、それを相手に伝えてみる。すると、誰かに触れるときにも「この触れ方で大丈夫かな」と相手を見るようになります。

「ずんずん先鋭化」と「裾野を広げる」

横浜赤レンガ倉庫1号館 振付家の制度に応募した背景には、ここ数年の活動を通じて強まってきた実感があります。「作品を作っているだけでは、なかなか社会に波及していかないという感覚があって。作品作りでは、自分がいま一番気になることを『ずんずん先鋭化していく』必要があります。裾野を広げるのは、多分それとは全く別のこと。これまでは作品制作に重心を置は『閾値・境界』という意味。まさにこれは渋谷さんの越境的な姿勢と呼応するものでしょう。最後に、現在と未来について聞いてみました。

「今度のアルバムはNHKスペシャル『臨界世界-ON THE EDGE-』のために書いた曲が核ですが、世界の終わり、というのが一つのテーマでした。昔は世界の終わりなんて永遠に来ないと思っていたけれども、現代の戦争や温暖化を目の当たりにしていると、もしかしたら、という気にもなる。そんな感覚が曲に入ってますね。そして2027年の秋にヨーロッパで発表する新作は重要なものになるはずです。アンドロイドも含む総合芸術的な作品。僕が作っているのは広い意味では西洋音楽なので、西洋に刃をつきつけなくてはいけないと、いつも思ってます」。

取材・文：沼野雄司（音楽学者）

PROFILE

渋谷慶一郎
Shibuya Keiichiro

1973年東京生まれ。東京藝術大学作曲科卒業。東京とパリを拠点とし、人間とテクノロジー、生と死の境界領域を作品を通して問いかけている。代表作はボーカロイド・オペラ『THE END』（パリ・シャトレ座 2013）、オペラ『Super Angels』（新国立劇場 2021）、アンドロイド・オペラ「『MIRROR』－Deconstruction and Rebirth－解体と再生－」（サントリーホール 2025）など。

atak.jp　keiichiroshibuy

+web
このマークの記事にはWEBだけの拡大版があります。表紙の二次元コードからご覧ください。



『全自動煩悩ずいずい図』(2023)　©BOZZO

ト、体ジにどこ な体たのとらドきやク実が。なこいわけ活い

いてきたので、今度はもう一方にも少し活動を振ってみようと思いました」。

これまでも個人でワークショップを続けてきましたが、一つひとつが「点」で終わり、なかなか「面」にならないと感じていました。劇場と一緒に取り組むことで、これまでとは違うことができるのではないかと期待しています。

その一つが、異なるジャンルの作り手がそれぞれの制作方法をシェアし合い、実践してみる「作り手同士のシェアワークショップ」です。「ダンスだと職業でやっている分、『ここで下手なことはできない』という鎧や、つまらないプライドが出ることも。でも、違うジャンルなら『何も知らないので教えてください』と素直にバカになれるんですよね。この前は映像作りだったのですが、やったことのない思考と方法でものを作る体験には、作品作りを始めた頃の新鮮なワクワクに通じるものがありました」。

「自分からは逃れられない」からこそ、「この人の視点を借りて作ってみるとどうなるのか」とその方法を自分の中に通して試してみる。そこで「発想のジャンプ」が起こることもあります。

体を使って思考する

並行して、地域で活動するアーティストたちに活動の知恵を聞く場もひらいています。「そういう知恵は、共有財産としてシェアして、真似すればいいと思うんです。地域の制度を使うと、普段なら関わらない行政の人と話すこともある。電話だけだった人がワークショップを見に来て、実際に話すことで少し関係が変わることも。本当に小さいことですけど、もうそういう積み重ねしかない」。

康本さんは、振付家という仕事をこう捉えています。「自分の体と人の体、またその間に立ち上がる関係性を扱う仕事なのかなと思います。作品として形にする人も、ワークショップをする人も、もっと違うことをする人もいるかもしれない。共通しているのは、体を扱って、体を使って思考していることだと思います」。

取材・文：呉宮百合香

PROFILE

康本雅子
Yasumoto Masako

自作品を国内外で発表するほか、演劇・映像・広告・アニメへの振付など多方面において活動。25年WSの企画運営を行う団体「ああ99ビビ」を立ち上げ、インクルーシブや性教育など、ニッチなWSを展開中。26年4月より横浜赤レンガ倉庫1号館の振付家として活動開始。

［新作情報］　2027年2月17日(水)・18日(木)
横浜赤レンガ倉庫1号館3Fホール　045-211-1515
yokohama-dance-collection.jp

+web
このマークの記事にはWEBだけの拡大版があります。表紙の二次元コードからご覧ください。



©KAZNIKI



JAXA 相模原キャンパス・宇宙科学探査交流棟を訪れた小松さん　©KAZNIKI

JAXA相模原キャンパス × 小松宏誠

アーティスト

このワクワク感。まさにアートの感動と似ている。

JAXA（国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構）では火星衛星探査計画（MMX）が進行中です。探査機を火星の衛星フォボスに送り、表面の砂を採取し、地球へ持ち帰る5年間にわたるミッションです。そんな壮大なプロジェクトの一翼を担っているのが、JAXA相模原キャンパスです。今回、飛翔・浮遊をテーマに活動するアーティスト・小松宏誠さんが探査機打上げを間近に控えたJAXA相模原キャンパスを訪れました。

開発者の方が目の前にいると宇宙を現実として認識できる

宇宙はあまりに遠く、小松さんの中ではファンタジーだったそうです。

「ロケットや衛星、さらには、はやぶさ2が持ち帰った小惑星リュウグウの砂を見させていただき、現物の説得力に圧倒されました。さらに、探査機を開発している研究者の方にお会いできた。開発者の方が目の前にいると、宇宙を現実として認識できますね」。

全部追体験することが大切

今、小松さんはアートと宇宙探査が地続きにあると感じています。

「MMXプロジェクトはアーティスティックです。望遠鏡でフォボスを見つけるだけでも大変なのに、実際に行って、表面を掴んで戻ってくる。それが可能だと本当に思っている、やろうとしている人がいる。それをリアルタイムで体験できるんです。このワクワク感。まさにアートの感動と似ています。

最初に構想があり、実現するために大変な労力がいる。作品制作と同じ。費やされる労力を含めてのミッションであり作品です。火星の衛星の砂を持って帰ってきましたという結果だけをニュースで知ってもつまらない。全部追体験することで感動できます（笑）」。

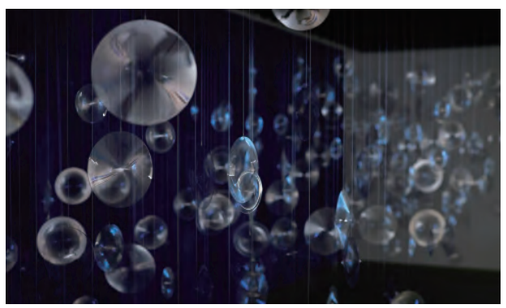
PROFILE

小松宏誠
Komatsu Kosei

1981年生まれ。2006年東京藝術大学大学院修了。武蔵野美術大学建築学科特任准教授。主な展覧会：「光と影のモビール 海がのぼる空がふる」瀬戸内市立美術館（2026）、「光と影のモビール けしきと歌」鳥取県立美術館（2025）など。
kosei_komatsu



「小松宏誠展 光と影のモビール 森の夢」　Photo: Shin Inaba
金津創作の森美術館（2022）



「小松宏誠展 光と影のモビール 海がのぼる空がふる」
瀬戸内市立美術館（2026）

CROSS TALK

吉川健人 × 小松宏誠

MMXプロジェクトチーム研究開発員

アーティスト



小松さん（左）と吉川さん（右）　©KAZNIKI

誰かの新しい挑戦を知ることで、自分自身の想像力も広がっていく。



MMXミッションマーク
©JAXA

アーティストの小松宏誠さんとJAXA研究開発員の吉川健人さんとの対談をお届けします。吉川さんは「MMXプロジェクト」では着陸船と衛星上探査車の開発・制御を担当しています。

計算することで、想像することができる

小松　私は自分の体感を通して想像します。宇宙はあまりに遠く、もうひとつイメージできない。科学者の方はどのように想像するのでしょうか。

吉川　一つめは数字です。計算することで、見えないもの・未経験なことを想像することができます。二つめは実験です。面白いことに、宇宙空間は真空で外乱となる要素が少ないので、宇宙機の向きを変更する制御則などは、計算通りの結果を見せてくれます。

PROFILE

吉川健人
Yoshikawa Kent

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙科学研究所 火星衛星探査機プロジェクトチーム（MMX）研究開発員。専門はアストロダイナミクス、航法誘導制御、宇宙ロボティクス、宇宙システム、惑星探査。著書：「はやぶさ2」のすべて ミッション＆メカニカル編：小惑星リュウグウ探査プロジェクト（共著）等

JAXA相模原キャンパス

神奈川県相模原市中央区由野台3-1-1
JR横浜線「淵野辺駅」より 神奈川中央交通バス
「淵36または淵37 青葉循環 淵野辺駅南口」行き「市立博物館前」下車 徒歩2分
小田急線「相模大野駅」北口より 神奈川中央交通バス
「相05 相模原駅南口」行き「大野台三丁目」下車 徒歩10分
「相02 相模原駅南口」行き「宇宙科学研究本部」下車 徒歩5分
jaxa.jp（JAXA公式サイト）
mmx.jaxa.jp（MMXプロジェクト公式サイト）
fanfun.jaxa.jp/countdown/mmx_h3f10（MMX打上げ特設サイト）



宇宙科学探査交流棟の前に鎮座するM-Vロケット ©KAZNIKI

想定外の何かが生まれることが大切

吉川 アートの場合は制作する前の計画についてはいかがですか。

小松 作品を作る場合、結果が全て見えて作っていたら面白くありません。どこか自分が予想していなかった想定外の何かが生まれることが大切です。

吉川 科学者にとっても想定外の反応や結果はとても興味深く面白いです。もちろん、プロジェクトが成功した上でのことですが(笑)。

小松 それはアート作品も一緒ですね(笑)。

ロケットが星になった

吉川 今回のMMXプロジェクトの目的は、火星やその衛星の成り立ちを知ることです。それは人間がどこから来たのか、何によって、どのように生まれたのかを知るための一歩でもあります。

小松 私は作品制作を通して目の前のことを認識し直します。例えば、雨が降ってくる。それを手のひらで受け止める。今、手のひらにある雨は、ほんの少し前までは大空に浮かんでいた水分です。目の前の小さなことが大きな世界とつながっているんです。

吉川 先日、H3ロケット9号機「みちびき7号機」の打ち上げを現地で見ました(2026年8月11日)。未明の打ち上げでした。打ち上げ当初はエンジンから火を噴くロケットでしたが、段々と上昇していくと赤い点になり、星になったんです。今まで感じたことのない感覚でした。

小松 わあ、打ち上げはぜひ見てみたい。

知識だけの宇宙から現実の延長の宇宙に変わっていく

吉川 今回、普段お会いすることがない芸術家の方とお話しさせていただき、工学や理学と違う視点で、MMXを見ることができるきっかけをいただいた気がします。

小松 自分でなくても、誰かの新しい挑戦を知ることで、自分の想像力も広がっていくと実感しました。知識だけの宇宙から現実の延長の宇宙に変わっていく感じがすごくある。皆さんも、ぜひJAXA相模原キャンパスを体験してほしいです。

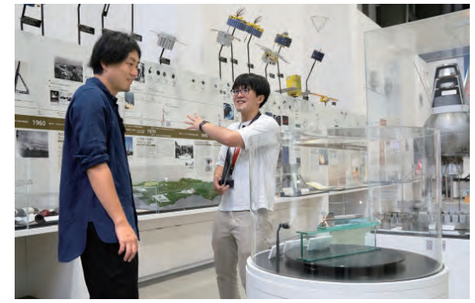
(2026年9月1日取材)

+web このマークの記事にはWEBだけの拡大版があります。表紙の二次元コードからご覧ください。

JAXA相模原キャンパス見学案内

・個人で見学の方は、事前予約不要です。
・10名以上で見学を希望される方は、お問い合せください。
・「展示解説ツアー」「実験棟見学ツアー」「壁面シアター」を実施しています。開催日時をご確認ください。

＊詳しくは下記のサイトをご覧ください。
isas.jaxa.jp/visit



広報担当の小瀬村達也さんの解説を聞く小松さん ©KAZNIKI

神奈川県内の重要文化財など、知る人ぞ知る地域のお宝を紹介します。



まさに仏の世界が眼前に広がる宝殿

宝城坊旧本堂内厨子と諸仏・四天王像・十二神将像

(国指定重要文化財)

日向薬師 宝城坊・伊勢原市

日向薬師 宝城坊は、奈良時代・霊亀(れいき)2(716)年に、後に東大寺の大仏建立の責任者となる僧・行基(ぎょうき)により開かれたと伝わる名刹です。

10件の国指定重要文化財だけでも23体の仏像が安置されています。

平安時代中期の作と言われる本尊の秘仏・鉈彫(なたぼり)り＊1薬師三尊像をはじめ、平安時代末期から鎌倉時代初期に造られたとされる丈六＊2の坐像である薬師如来像・阿弥陀如来像、関東屈指の大きさを誇る鎌倉時代前期の作と考えられる四天王像、鎌倉時代後半の作と言われる十二神将像などの文化財が一堂に揃った東国随一を誇る宝殿です。

本尊の薬師三尊像を安置する厨子は本格的な建築手法で造られ、禅宗様式の影響を受けた日本最古の例の一つとして位置づけられています。

本尊の開帳は正月三が日と初薬師(1月8日)、春季例大祭(4月15日)に行われます。

寺林も天然記念物に指定され、山全体が特別な祈りの場なのです。

協力：日向薬師 宝城坊

＊1：表面にノミ痕を残し、見る角度や光の量などによる陰影の変化で、仏像の印象を変える視覚効果。関東地方を中心にした東国固有の技法。
＊2：釈迦の身長といわれる1丈6尺(4.85m)。坐像はその半分の2.4m

日向薬師・宝城坊
伊勢原市日向1644番地
小田急線「伊勢原駅」北口より日向薬師行きバス終点下車 徒歩約15分
4月～10月 9:00-17:00、11月～3月 10:00-16:00
0463-95-1416 hinatayakushi.com
上記のサイトから、厨子や諸仏の3D映像が鑑賞できる特設サイトに移動できます。



宝城坊本堂(国指定重要文化財)

かながわ
聖地巡礼
箱 根

県内にある、様々なアート作品の舞台となった場所を巡る「かながわ聖地巡礼」。記念すべき第１回は、歴史と温泉の地である「箱根」を取り上げます。作品の世界に入っていく旅に出かけてみませんか。





シンジの同級生トウジとケンスケがシェルターを抜け出して向かった神社。ここからエヴァンゲリオンと使徒の戦いを見守ります。



謎の生命体使徒と戦う特務機関NERVの偽装兵力の一つとして箱根ロープウェイが登場。戦闘時には火器を搭載した迎撃用武装ゴンドラに変わります。



詩人・北原白秋（大森南朋）と作曲家・山田耕作（AKIRA）の交流と友情を描いた本作で、白秋の詩集『思ひ出』（明治44年刊行）の出版記念パーティー会場として登場。



遺伝子工学の白神博士が亡くなった娘（沢口靖子）の細胞、バラ、そしてゴジラの細胞（G細胞）を融合させて、バイオ怪獣ビオランテを生み出してしまいます。数日後、巨大化したビオランテが芦ノ湖に現れます。







アイドルグループ櫻坂46の４枚目シングル『五月雨よ』のミュージックビデオで、冒頭とラストのシーンに登場。メンバーの山﨑天が芦ノ湖を背景にして浮遊します。



シンジがエヴァンゲリオンに搭乗する事への葛藤や孤独感から家出し、あてもなくさまようシーンで大涌谷を訪れます。



テレパシー能力を持つエリート・高台光正（斎藤工）の祖母が暮らすイギリスのお屋敷の目の前に広がる風景として登場。妄想癖のある不器用なOL・木絵（綾瀬はるか）が光正と結ばれるラストシーンの舞台にも。



少年探偵団と灰原哀、阿笠博士が訪れる夜の箱根のシーンで、大観山展望台と「箱根のブランコ」が登場します。



神奈川県警交通機動隊の萩原千速が乗る白バイ「エンジェル」と、黒いバイク「ルシファー」が走りで勝負するシーンに登場。ここから横浜まで爆走します。



一度は第３新東京市（箱根町仙石原周辺）を去ろうとしたシンジが、再挑戦を決意して上司であるミサトと再会する場所。





取材中に出会った素敵な景色やスポットなど関連動画をSNSで順次投稿していきます。ぜひフォローしてください。

kanagawa_press　kanagawa_press

映画『この道』（2019）
監督：佐々部 清
出演：大森南朋、AKIRA、貫地谷しほり、松本若菜、松重 豊、羽田美智子 他

❶ 富士屋ホテル
神奈川県足柄下郡箱根町宮ノ下 359
箱根登山バスまたは伊豆箱根バス「ホテル前」下車 徒歩２分
箱根登山鉄道「宮ノ下駅」徒歩７分

映画『高台家の人々』（2016）
監督：土方政人
出演：綾瀬はるか、斎藤 工、水原希子、間宮祥太朗、大地真央、市村正親 他

❷ 箱根園 富士芦ノ湖パノラマパーク
神奈川県足柄下郡箱根町元箱根 139
伊豆箱根バス「富士芦ノ湖パノラマパーク」下車 徒歩１分

映画『ゴジラ vs ビオランテ』（1989）
監督：大森一樹（本編）、川北紘一（特撮）
出演：三田村邦彦、田中好子、高嶋政伸、小高恵美、峰岸 徹、沢口靖子 他

❸ 芦ノ湖 桃源台港
神奈川県足柄下郡箱根町元箱根 164
箱根ロープウェイ「桃源台駅」すぐ

アニメ劇場版『名探偵コナン ハイウェイの堕天使』（2026）
監督：蓮井隆弘　原作：青山剛昌
出演：高山みなみ、沢城みゆき、山崎和佳奈、小山力也、林原めぐみ 他

❹ アネスト岩田 スカイラウンジ
神奈川県足柄下郡湯河原町鍛冶屋 955
アネスト岩田 ターンパイク箱根入り口から車で１５分

❺ 箱根のブランコ（大観山展望台）
神奈川県足柄下郡湯河原町鍛冶屋 955
アネスト岩田 スカイラウンジから徒歩１分

TV版『新世紀エヴァンゲリオン』（1995-1996）
監督：庵野秀明　原作：庵野秀明
出演：緒方恵美、林原めぐみ、宮村優子、三石琴乃、立木文彦　他

❻ 箱根湯本駅
神奈川県足柄下郡箱根町湯本白石下 707-1
小田急線箱根湯本駅

❼ 早雲山駅
神奈川県足柄下郡箱根町強羅 1300-328
箱根登山鉄道「強羅駅」より 箱根登山ケーブルカー「早雲山駅」

❽ 大涌谷
神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 1251
箱根登山ケーブルカー「大涌谷駅」下車

❾ 公時神社
神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 1181
箱根登山バス(御殿場プレミアム・アウトレット行き)「金時神社入口」下車 徒歩６分

櫻坂46『五月雨よ』（2022）
作詞：秋元 康　作曲：温 詞　MV監督：堀田英仁

❿ 芦ノ湖遊覧船 箱根園港
神奈川県足柄下郡箱根町元箱根138
伊豆箱根バス「箱根園」下車 すぐ

MUSIC

紅葉坂プロジェクト Vol.5

2026年7月11日(土)
神奈川県立音楽堂
主催：神奈川県立音楽堂

本号の特集テーマである「新たな視点を手にする」を、最も体感できるのが「紅葉坂プロジェクト」。挑戦的で意欲的な企画を公募で選び、聴衆とともに「何が起こるかわからない」瞬間に立ち会うこのプロジェクトは、回を重ねるごとに稀有な存在感を増しています。

Vol.5となる今回選ばれたのは、演奏という枠を超えて独自の道を切り拓くコントラバス奏者・近藤聖也さんと、打楽器奏者・作曲家の會田瑞樹さんの企画です。近藤さんは、コントラバスの固定観念にとらわれない演奏で「過去と未来」を旅する物語を紡ぎ、會田さんは、横浜の記憶をたどるモノオペラ『あかいくつをさがして』を書き下ろし、今最も勢いのある若手奏者を中心としたアンサンブルが好演しました。

「初演」という瞬間に立ち会えるのは、その日限り。居合わせた人だけが知る手応えこそ、このプロジェクトの醍醐味です。未体験の方は、新しい扉が開くときめきを、次回ぜひお確かめください。

文：鐘ケ江織代(アートマネージャー)



『10万年前のコントラバス / 10万年後のコントラバス』 ©Tomoko Hidaki
近藤聖也（コントラバス）



『一息ごとに一時間、あかいくつをさがして』 ©Tomoko Hidaki
會田瑞樹（演奏・作曲）

次回紅葉坂プロジェクト(Vol.6)
2027年2月27日(土) 公開プレゼンテーション／7月24日(土) 本公演



© 藤本史昭

お客さまの声

・チェロの繊細な音色やエレクトロニクスがNHK東京児童合唱団の歌声と見事に馴染み、クラシックホール全体に美しく鮮明な響きが広がっていました。
・アフタートークでの出演者の掛け合いも楽しく、作品の背景を深く理解できました。もう一度聴きたいと思える心豊かな公演でした。

横浜みなとみらいホールコンポーザー 2025-2027
梅本佑利 歌を忘れて泣いた

2026年7月17日(金)
横浜みなとみらいホール 小ホール
主催:横浜みなとみらいホール

道具を介さずメロディを奏でる唯一の方法、それが自らの身体を楽器として用いる「歌う」という演奏であり、「声」とは自分と切り離すことのできない唯一の楽器と言えるのではないでしょうか。自らの声と他者の声を合わせる合唱の中で、音楽に溶け込む感覚に居場所を見つけていた少年時代の梅本佑利さん(作曲家)。今回のコンサートでは、かつて在籍したNHK東京児童合唱団の歌声と、当時ともに児童合唱団で歌った仲間・原宗史さんのチェロに導かれ、思い出の中を彷徨うような時間が流れていました。

少年少女の心洗われる無垢な歌声の余韻が漂う中で行われたアフタートークでは、コンサートに至るまでの葛藤が赤裸々に語られました。過度に主張しない、素朴で純粋な響きへの希求から、梅本さんの楽曲を貫く源流を感じられ、横浜みなとみらいホールにおける約2年にわたるレジデンス・コンポーザーの見事な最終章となりました。

文：鐘ケ江織代(アートマネージャー)

神奈川フィルと巡る
県内オーケストラコンサート in 伊勢原
～ピアニスト 天野薫を迎えて～

2026年8月11日(火･祝)
伊勢原市民文化会館 大ホール
主催：神奈川県立県民ホール



撮影：阿部章仁

休館中の神奈川県民ホールが県内33ヶ所を巡る〈KANAGAWA 33 ACT〉の一環として開催された「神奈川フィルと巡る県内オーケストラコンサートin伊勢原」。指揮は阿部未来さん。客席には夏休みで日に焼けた子どもたちの姿がたくさん見られ「初めてのオーケストラという方は？」という問いにも多くの手が挙がります。

前半は、昨年小6で仙台国際音楽コンクールに史上最年少入賞した天野薫さんが登場。演目の聴きどころや、“夏休みの宿題が終わっていない”という子どもらしいエピソードを語ってくれたのち、まるで別人のように音楽に入り込み、情感豊かな演奏を披露しました。後半、楽器紹介『アンパンマンのマーチ』では、各楽器の美点を活かしたアレンジによるお馴染みのメロディに子どもたちが盛り上がります。その後もオケのスケール感を味わう名曲が目白押し。ビゼー『カルメン組曲』の後は歓声があがり、チャイコフスキー『白鳥の湖』ではハーモニーの美が発揮されました。生演奏ならではのエネルギーが伝わる演奏会でした。

文：高坂はる香(音楽ライター)

お客さまの声

・力強い演奏と指揮者に大拍手。市内で鑑賞出来たことに感謝。天野薫さんの演奏も見事でした。
・アンパンマンの曲で楽器紹介というのが楽しく、またこんなアンパンマンは初めてで、素敵でした。
・孫たちと三世代で地元で演奏を聴け、大変感動しました。

音楽堂ヘリテージ・コンサート
タリス・スコラーズ 天上のアカペラ合唱

2026年7月19日 (日)
神奈川県立音楽堂
主催：神奈川県立音楽堂



©Tomoko Hidaki

イギリスの混声コーラス・グループ、タリス・スコラーズは、合唱音楽のルーツとして、中世の単旋律聖歌を随所に配し、そこから派生したルネサンスの豊かな宗教音楽、そして現代にも息づく祈りの世界を体現しました。12世紀の修道女ビンゲンによる聖歌は、大きな音程の跳躍や細やかな上下動を含む独特の節回しが魅力的で、神に捧げられた賛美の声を響かせました。パレストリーナなどルネサンス期の多声音楽は、聖歌から流れ出た旋律が折り重って調和し、県立音楽堂を満たします。圧巻だったのはタリス・スコラーズの代名詞ともいえるアレグリの『ミゼレーレ』で、舞台上、客席上手側後方に分かれた合唱群と、その中央から唱えられる独唱が会場全体を使って呼応します。高みへと向かって伸びていく声には、バロック様式の教会建築を思わせる天上への力学を感じます。20世紀エストニアの作曲家ペルトによる諸作品は和音の縦の響きに重点を起き、不安に苛まれる現代の私たちに直接的なメッセージを放ちました。

文：谷口昭弘(音楽学・音楽評論)

お客さまの声

・来日の度に必ず鑑賞しています。プログラムも大変魅力的だったので千葉から足を運びました。
・『ミゼレーレ』を生で聴けて、とても感動。高校生無料席を利用できたので、娘とともに鑑賞できました。
・極上の演奏を聞かせていただけた。ホールの音響が気に入った。シャトルバスがあり、助かりました。

ART

毛利悠子 Recompose
第60回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館帰国展

2026年7月24日（金）～11月23日（月・祝）
横浜美術館 ギャラリー 9
主催：横浜美術館、株式会社メルコグループ



「毛利悠子 Recompose」展示風景　撮影：竹久直樹

現代美術の世界的祭典、ヴェネチア・ビエンナーレにおいて、2024年に日本館で開催した毛利悠子の個展が、作家の出身地である神奈川県で凱旋開催されています。

横浜美術館のガラス張りの新設ギャラリーには、オレンジ色のタライや緑色のホース、果物、猫足のコンソール、スピーカーなど、様々なものたちが空間いっぱいに配置されていました。それらは水や電気を媒介として互いに働きかけ、循環を生み出し、賑やかな音を奏でます。

一見するとバラバラ。しかし、不思議と調和があり、展示室には、どことなく爽やかに鼓舞されるようなグループが生み出されていました。

異なるものを調和に導く力こそ、他者と共に生きる社会に必要な感覚ではないでしょうか。

ヴェネチアで「Compose」展として組み上げられたものを、場に応じてオブジェや音の関係を編み直し、再び「com＝共に」「pose＝置く」ことで調和へと導く。これを可能にしたのは、毛利の卓越した構成力です。

文：友川綾子（ayatsumugi）

2年前に新設されたガラス張りのギャラリーを毛利さんがとても気に入ってくれて、そこを使うことになったのです。動きや音をともなう作品たちが、人の往来が絶えないみなとみらいのシティスケープと響きあって、ふだんの美術館の静謐（せいひつ）さとは一線を画す、生気に満ちた空間が創り出されました。

松永真太郎（横浜美術館 学芸グループ長、主席学芸員）

2人展　会田 誠・岡田裕子

2026年5月30日（土）～8月16日（日）
カスヤの森現代美術館
主催：カスヤの森現代美術館



提供：かすやの森現代美術館

横須賀に新アトリエを構えた会田誠・岡田裕子夫妻による初の二人展では、会田は巨大な連作絵画『混浴図』を公開制作。岡田は物故女性アーティストをテーマにした『井戸端で、その女たちは』を展示しました。夫婦の作品は独立独歩。絶妙な距離感と親和性を感じさせました。

会田が描く混浴温泉には、トランプ大統領や綾波レイ、妖怪、ちょんまげの人物など、現実と虚構を織り交ぜて多様な人々が入浴しています。眺めているだけならユニークであっても、もし温泉に「ご一緒にどうぞ」と誘われたらと想像すると、抵抗感が湧いてしまいます。その感情こそ、多様性の時代に潜む不穏さといえるでしょう。

一方、岡田は「有名アーティストの妻であり、自身もアーティスト」という自らのプロフィールを作品のなかにユーモラスに転じてみせます。美術史上で埋もれてきた女性たちを掘り起こすアプローチに共感しました。

二人の視点は、多様性が尊重される社会のあり様と、意識の転換の必要性を問うているかのようでした。

文：友川綾子（ayatsumugi）

制作過程を見せることは、作家には好ましいとは思えません。今回、あえて会田誠さんは、会期の約3か月間、公開制作されました。 木炭による下書きから彩色された部分が増え、「この世にある全て」が雪のちらつく野天風呂で湯浴みするすばらしい絵画の物語を多くの人々と共有する企ては成功したと思えます。

若江栄辰（はるこ）（カスヤの森現代美術館館長）

PLAY

KAATキッズ・プログラム2026
『子どものためのうつくしい国』

2026年8月16日（日）～23日（日）
KAAT神奈川芸術劇場〈中スタジオ〉
主催：KAAT神奈川芸術劇場



撮影：宮川舞子

ポーランドの教育者であり作家、ヤヌシュ・コルチャック原作の児童文学を劇化。レパートリーとして上演を重ねてほしい、ステキな作品が誕生しました。

主人公は、父王の死で幼くして王さまとなったマット。舞台では賢く勇気あるこの少年王が、奮闘しながら世界を知っていく様がスピーディーに描かれます。椅子と机が並ぶ教室のような空間が、時に戦場となり、時に異国となり……と、“見立て”で目まぐるしく変化する展開は魔法のよう。たった5人とは信じられない、チャーミングなキャストによる見事な演じわけや、影絵や人形劇や仮面劇など、彩りあふれた演出にも目を見張りました。ピッタリと芝居に並走して音を生み出すミュージシャンの素晴らしいこと！

なかなか「理想的」とはいえない私たちの世の中ですが、夏の終わり、ヴィヴィッドに反応する“小さな観客たち”と一緒に「うつくしい世界」を考え、信じ、想像するひと時は、かけがえのない経験となりました。

文：川添史子（編集者・ライター）

お客さまの声

・TVやネットではない本物のお芝居を初めて子どもたちに見せることができて本当に良かった。誰ひとり90分飽きさせない全力の演技と演奏ごくろうさまでした。
・お子さんたちの笑い声や反応が大人とは違っていて、そこにも新鮮な驚きなどがあり、観客席も舞台の一部と感じました。あっというまの1時間半。

五大路子ひとり芝居『横浜ローザ』

2026年8月13日（木）～16日（日）
KAAT神奈川芸術劇場〈大スタジオ〉
主催：横浜夢座



撮影：森 日出夫

白の貴婦人ドレス、ピエロのような白塗り、真っ赤な口紅と赤い靴。「伝説の娼婦」の代名詞ともなったそのいでたちは、身勝手な世間の目から身を守り独り進むための白銀の鎧のようにも見えました。

1996年の初演から今年で31年目を迎える五大路子さんの一人芝居『横浜ローザ』。2015年には念願のアメリカ公演も果たしたライフワークです。戦争で夫と引き離され、不幸な事件をきっかけに娼婦となり、「伝説」とまで呼ばれるようになったローザ。虚実定かでないその半生の裏側には、戦争の悲惨と健忘症のこの国の姿がベッタリと張り付いています。そしてそれは、独りローザだけの問題ではなく、この国に暮らす全ての女性、弱者、少数者に当てはまるものでしょう。そのことを舞台の上のローザがくっきりと気づかせてくれます。

しかも、この舞台は生きています。再演の度に、時々の世相に応じて新たな気づきを与えてくれます。そして今回演出も新しくなり、若い観客にもより親切になりました。次はどう成長し、どんな時代を映してくれるのでしょうか。

文：今村 修（元演劇記者）

お客さまの声

・過酷な状況の中で自分の意思を持って生きようとするローザの姿が強く印象に残りました。
・劇中でだんだんと濃くなっていくお化粧は、「鎧」だったのではないでしょうか。
・毎年少しづつ変化していく『横浜ローザ』。今年も母と楽しむことができて感激しております。

Letter from
Kanagawa Arts Foundation

「神奈川芸術プレス」を発行している公益財団法人神奈川芸術文化財団の活動をご紹介します。

社会連携ポータル課



学校教育へのアプローチ／先生のためのアウトリーチ研修会 講師の若鍋久美子（打楽器奏者）を囲んで（神奈川県立音楽堂ホワイエ）　撮影：栗原寿美江

社会連携ポータル課とは

神奈川芸術文化財団では「文化施設があらゆる人々へ開かれた場となること」、「芸術文化を通した地域との連携の強化」の実現に向けて、2021年4月にその機能を担う「社会連携ポータル課」を設置しました。『社会と芸術をつなげる窓口＝ポータル』の機能を果たし、文化施設と社会との新しい関係を作っていきます。

専門人材育成プログラム

ホール・劇場や舞台芸術の分野で働くプロのための講座を開催しています。音楽・演劇などそれぞれの分野の特性を活かし、舞台芸術の世界でさらなるステップアップを考える方向けの舞台技術講座や芸術分野で仕事に就くことを目指す学生などを対象としたインターンも行っています。また、環境に配慮しながら持続可能で豊かな表現を生み出す舞台芸術の実現を目指す「グリーンシアター！ワークショップ」を続けています。



人材育成／制作者のための舞台技術講座（KAAT神奈川芸術劇場）

あらゆる人々が芸術文化に親しめることを目指すインクルーシブアプローチ

より多くの方々が芸術を鑑賞できるよう「インクルーシブアプローチ」に取り組んでいます。年齢や障害の有無にかかわらず、劇場・音楽堂で鑑賞をしていただけるよう、目のみえない・みえにくい方には点字プログラムや事前説明会を、耳のきこえない・きこえにくい方には、字幕提供、きこえを補助する補聴システムの設置、手話通訳などの鑑賞サポートなどを一部の公演で行っています。また、観劇が初めての方も含めて様々な方が安心して一緒に舞台を楽しめるように配慮した「やさしい鑑賞会」を行っています。



インクルーシブアプローチ／会場の様子を触って知る触図　撮影：上野宏幸

学校教育へのアプローチ

子どもたちに芸術文化が身近なものになるよう、学校や地域にアーティストを派遣する「アウトリーチ事業」を行っています。近年は、外国にルーツを持つ子どもたちのために、言葉に頼らずに音楽を体感できるプログラムに取り組んでいます。また、先生がアウトリーチに関する知見と気づきを得られる「先生のためのアウトリーチ研修会」、プロのアーティストによるアウトリーチを体験してアウトリーチの実践について考える「先生のためのアウトリーチ」を行っています。



地域との連携／中高生夏期ボランティア（KAAT神奈川芸術劇場）

地域との連携（県域ネットワーク）

関東地域や全国の自治体文化財団、地域アーツカウンシルなどの会議に参加するほか、神奈川県障害者芸術文化活動センターや横浜市社会福祉協議会などとの連携を通して、県内外の文化芸術活動に関わる人や団体とのネットワークを作っています。

「社会連携ポータルサイト」には、日々の活動について職員が書いたnoteや、詳しい最新情報が載っています。ぜひご覧ください。
social-inclusion.kanagawa-arts.or.jp

公益財団法人神奈川芸術文化財団について

理　念

私たちは、その想像力と創造性を活用し、芸術文化の価値を高めます。
私たちは、芸術文化の力で、地域に生きる人々の心を豊かにし、幸福な社会の実現に貢献します。

ミッション

創造に挑む　感動を分かち合う　つねに考える　未来につなぐ

1993年に設立された神奈川芸術文化財団は、県立文化施設の運営と、芸術文化の創造・普及に一体的に取り組んできました。2025年からはKAAT神奈川芸術劇場、神奈川県立音楽堂の運営を担いながら、県域での事業展開に取り組んでいます。上に掲げた「理念」と「ミッション」のもと、神奈川から新たな文化を創造・発信し、多くの皆さまに、身近で質の高い芸術の鑑賞機会を提供し、交流を図ることを目指しています。

KAAT 神奈川芸術劇場



KAAT神奈川芸術劇場
長塚圭史を芸術監督に「ひらかれた」劇場を目指して優れた演劇・ミュージカル・ダンス等を創造・発信。
〒231-0023
神奈川県横浜市中区山下町281
045-633-6500（10:00-18:00）
kaat.jp

木のホール
神奈川県立音楽堂



©福田 駿

神奈川県立音楽堂
日本初の本格的公立音楽ホール。「木のホール」の豊かな響きで70年を超え多くの人に愛されています。
〒220-0044
神奈川県横浜市西区紅葉ケ丘9-2
045-263-2567（9:00-17:00 月曜休館）
kanagawa-ongakudo.com

33 33のまちと、ひびきあう。 KANAGAWA 33ACT Produced by 神奈川県民ホール

KANAGAWA 33ACT
神奈川県民ホールは休館中も県内33市町村で多彩な芸術文化を届ける活動を展開しています。
〒231-0023
神奈川県横浜市中区山下町252
グランベル横浜ビル8階
045-633-3729（平日10:00-17:00）
kanagawa-kenminhall.com

社会連携ポータル課
社会と芸術をつなぐ窓口＝ポータルとして、芸術文化を身近に楽しんでいただく取組をしています。
〒231-0023
神奈川県横浜市中区山下町252
グランベル横浜ビル8階
045-222-0553（平日10:00-17:00）
kanagawa-arts.or.jp/society_portal

art place art person

アートな場所にはアートな人がいます。
神奈川芸術文化財団で活躍するスタッフを紹介します。

吉田舞雪（社会連携ポータル課）

違いを持ったまま同じ世界に生きている。



©KAZNIKI

PROFILE

吉田舞雪
Yoshida Miyuki

鳥取県出身。公共劇場や芸術文化団体にて教育普及事業や人材育成事業に従事。2023年に神奈川芸術文化財団に入職。趣味は登山、ランニング、映画。

「公共劇場や音楽堂には、誰もが芸術文化に触れられる環境を整えたり、地域や学校教育と連携して芸術文化との接点を広げたりと、様々な役割があると考えています。こうした幅広い取組を専門的に担う部署があることに魅力を感じ、入職しました」と語るのは、2023年の入職以来、社会連携ポータル課で業務に携わる吉田舞雪さん。

吉田さんは鑑賞サポートをはじめとするインクルーシブアプローチや、地域や学校と連携した事業、インターンやボランティアなどの人材育成にも取り組んでいます。「芸術文化には様々な側面がありますが、自分とは違う生き方や考え方をする人がいることに気づくのは、大きな意味があると考えています。違いを持ったまま同じ世界に生きていることを実感する。そんなきっかけが一つでも増えると良いなと思っています」。

今後の目標について伺いました。「新しいことにも目を向けつつ、今ある取組を継続的に行うことができる体制を整えていくことが課題だと思っています。個人の頑張りや能力に依存するのではなく、誰が対応しても続けられるような仕組みにしていきたいです」。



鑑賞サポートグッズの説明をする吉田さん



セリフなどを手元で見られる字幕機器



触れることで気持ちが落ち着くフィジェット・トイ

ご支援のお願い

公益財団法人神奈川芸術文化財団は、芸術文化が持つ想像力と創造性を活かして、地域の人々の心を豊かにし、幸福な社会を実現することを目指しています。神奈川県を代表する二つの文化施設を運営し、誰もが芸術文化に親しめる環境づくりと、芸術文化の創造・発信に取り組んでいます。
共に芸術文化を創造し分かち合うパートナーとして、ぜひ皆さまのお力添えをいただきたく、ご支援のほどお願い申し上げます。

ご支援のメニュー

❶賛助会員
年間を通じて財団の公益目的事業全般にご支援いただきます。
■**個人賛助会員** 30,000円（一口・年間） ■**法人賛助会員** 100,000円（一口・年間） ほか

❷遺贈・相続ご寄付
大切な財産を遺言書によってお譲りいただくことで、ご支援いただくものです。

❸オンライン小口寄付
一口1,000円からクレジットカードでお気軽にご寄付いただけます。
■財団全体をご支援
■KAAT神奈川芸術劇場を支援（HEART KAAT）
■神奈川県立音楽堂を支援

財団全体をご支援 / KAAT神奈川芸術劇場をご支援 / 神奈川県立音楽堂をご支援

❹個別ご協賛・ご寄付
財団が主催する事業を選んで、個別にご支援いただけます。

❺個別事業広告出稿
貴社のイメージに合う事業のチラシやプログラム、WEBサイトや、情報誌「神奈川芸術プレス」に広告を掲載。



©引地信彦

KAAT神奈川芸術劇場プロデュース
『最後のドン・キホーテ THE LAST REMAKE of Don Quixote』



©Tomoko Hidaki

神奈川県立音楽堂 シリーズ「新しい視点」
ダニエル・オッテンザマー クラリネット・トリオ・アンソロジー



©阿部章仁

神奈川県民ホールpresents
藤沢市民オペラ 連携事業 オペラシリーズ
モーツァルト オペラ『羊飼いの王』全2幕

特 典

ご支援のメニューにもとづき、様々な特典をご提供します。
ご芳名の掲載／限定イベントへのご参加／主催公演へのご招待／主催公演の割引へのご優待／情報誌「神奈川芸術プレス」のご送付／最新チケット情報のお届け

税制上の優遇措置

当財団は、公益財団法人であり、賛助会費・協賛金（寄付金）は、税制上の優遇措置を受けることができます。

詳細・お問合せ・資料請求

公益財団法人神奈川芸術文化財団　経営企画課　寄付・賛助会員・支援担当
045-222-0551（平日9:00 -17:00）　shien@kanagawa-af.org

ご支援のお問合せ・資料請求はこちら

公益財団法人神奈川芸術文化財団 賛助会員・協賛・協力・寄付 ご芳名
五十音順・敬称略（2026年9月1日現在）

［賛助会員］
法人賛助会員：株式会社アクトエンジニアリング / アズビル株式会社 / 学校法人岩崎学園 / 株式会社ヴォートル / 株式会社エス・シー・アライアンス / 株式会社NHKアート / 鹿島建設株式会社横浜支店 / 株式会社勝烈庵 / 一般財団法人神奈川県教育福祉振興会 / 株式会社神奈川孔文社 / 株式会社神奈川保健事業社 / カヤバ CS 株式会社 / 川本工業株式会社 / 株式会社 KSP / 株式会社合同通信 / JCOMマーケティング株式会社 / 株式会社清光社 / 株式会社テレビ神奈川 / 東工株式会社 / 日成工事株式会社 / 日生商工株式会社 / 日総プレイン株式会社 / 日本発条株式会社 /パナソニック EWエンジニアリング株式会社 / Piascore 株式会社 / 株式会社ホテル、ニューグランド / 一般社団法人本牧関連産業振興協会 / 丸茂電機株式会社 / 三沢電機株式会社 / 森平舞台機構株式会社 / ヤマハサウンドシステム株式会社 / 株式会社有隣堂 / 株式会社豊商会 / 株式会社ユニコーン / 株式会社横浜アーチスト / 横浜信用金庫 / 弁護士法人横浜パートナー法律事務所 / 横浜ビルシステム株式会社 / 株式会社ワイイーシーソリューションズ / 匿名：4 社
永年個人賛助会員：延命政之 / 小山明枝
個人賛助会員：味田健一 / イシワタエミ / 小川 浩 / 香川智佳子 / 黒瀬博靖 / 髙岡俊之 / 高野伊久男 / 田中浩司 / 戸張 実 / 中澤守正 / 橋本尚子 / 原田清朗 / 松森 繁 / 御薗生和彦 / 山口健太郎 / 匿名：4 名

［寄付］
一般寄付：白土将志公認会計士事務所 / 匿名：1 名
その他、オンライン小口寄付等によるご支援も多数賜っております。

［協賛・協力］
能舞台協賛：ナイス株式会社
個別協賛：アクセンチュア 芸術部 / Accenture Art Salon / 株式会社シードブリッジ / 株式会社ルーク / 匿名：1 社
協力：株式会社富士住建

制振と耐震の2つの力が
くりかえす地震から、家族を守る。
完全フル装備の家®



詳しくはコチラ
富士住建
FujiJuken